

地域素材の教材化を通じた郷土教育の推進

～郷土を誇りに感じ、地域社会や国際社会の発展について考える生徒の育成～

霧島市立国分南中学校 教諭 大重 嘉孝

目次

1	はじめに	2
2	研究主題	2
3	研究主題設定の理由	2
	(1) 教育基本法及び中学校学習指導要領から	
	(2) 第二次霧島市教育振興基本計画から	
	(3) 本校の郷土教育の目標から	
4	研究の仮説	2
5	研究の実際	3
	仮説Ⅰ の検証【社会科における実践】	3
	(1) 「県民の日」を取り上げた授業	
	(2) 薩摩義士山元八兵衛を取り上げた授業	
	(3) 地理的分野「地域調査の手法」及び「地域の在り方」の学習	
	(4) 上野原縄文の森と連携した学習	
	仮説Ⅱ の検証【「総合的な学習の時間」・道徳科における実践】	7
	(1) 修学旅行先の地域的特色を明らかにする探究活動（「総合的な学習の時間」実践①）	
	(2) 地域内の上級学校と連携した探究活動（「総合的な学習の時間」実践②）	
	(3) 郷土に関係する人物を取り扱う道徳の授業（道徳科実践①）	
	(4) 足尾銅山鉍毒事件から地域環境について考える道徳の授業（道徳科実践②）	
6	研究の成果と課題	10
	(1) 成果	
	(2) 課題	
7	おわりに	10

引用文献、参考文献等

- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』
- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』
- 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』
- 鹿児島県総合教育センター（2015）『鹿児島県の歴史概観』
- 鹿児島県総合教育センター（2023）『短期研修資料 鹿児島再発見！郷土教育講座②』

1 はじめに

母校である本校に赴任して4年目を迎えた。校区内には多くの史跡や文化施設等があり、社会科教員そして先輩として郷土のもつ魅力や可能性を生徒（後輩）に少しでも感じてもらえる授業を推進したいと日々考えている。

2 研究主題

地域素材の教材化を通じた郷土教育の推進
～郷土を誇りに感じ、地域社会や国際社会の発展について考える生徒の育成～

3 研究主題設定の理由

(1) 教育基本法及び中学校学習指導要領（以下、指導要領）から

教育基本法前文には、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進することが示され、第2条第5では目標の一つとして、次の内容を規定している。

伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。

また、指導要領【社会科編】では、次のような指導の充実を目指している。

比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現すること

(2) 第二次霧島市教育振興基本計画から

基本目標「夢を描き高い志をもって学び続け、共に輝く未来を創る心豊かな人づくり」を受け、目指す姿として次の内容を掲げている。

郷土の自然、歴史、文化を尊重する態度を身に付け、生涯にわたって共に学び、豊かな社会づくりに貢献する人間

自分が育つ地域を愛し誇りに思う態度は、他地域や他国の良さ及び多様性を認めることにつながり、グローバル社会を生きる上で基本となる力の一つでもある。

(3) 本校の郷土教育の目標から

校歌に、「国分の広野の朝明けて」「錦江湾の空仰ぐ」とあるとおり、本校は、錦江湾に面する国分平野南部を校区とする全校生徒501人の学校である。市街地化が進む一方、田園地帯や上野原縄文の森など多くの自然や史跡が残る校区でもある。本校では次のような郷土教育の目標を設定し、取り組んでいる。

ア 郷土にある教育素材の教材化を図り、それらの活用を通して郷土に対する理解を深める。

イ 郷土を愛し、郷土の発展に尽くそうとする態度や行動力を育成するとともに、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。

4 研究の仮説

郷土教育は、教育活動全般において推進されるものであるが、社会科は、郷土教育に直接的に寄与できる教科である。また、地域ならではのよさや特色に応じてより良い郷土の創造に向けた探究活動を例示する「総合的な学習の時間」や、地域社会の一員として、郷土を愛し、国際的な視野から世界平和の発展に寄与する態度の育成を目指す道徳科との関連も深く、教科等横断的な視点から郷土教育を推進することも目指した。これらを受け、研究の仮説として次の2点を設定することとした。

仮説Ⅰ【社会科における実践】

地域素材を教材化した社会科の学習や体験を積み重ねることにより、郷土の歴史や文化に対する正しい理解や誇りを育むことができるのではないだろうか。

仮説Ⅱ【「総合的な学習の時間」・道徳科における実践】

社会科で培った郷土理解を基に「総合的な学習の時間」や道徳科において教科等横断的な学習に取り組むことにより、他地域や他国を尊重し、国際社会の平和や発展に寄与しようとする態度の育成につながるのではないだろうか。

5 研究の実際

仮説Ⅰの検証【社会科における実践】

(1) 「県民の日」を取り上げた授業

平成30年に制定された「県民の日」(7月14日)を取り扱う授業に以前から挑戦したいと考えていた。残念ながら、「県民の日」の認知度や盛り上がりには欠けている感があり、本校生徒も同様のことが予想された。そこで、ほとんどの生徒が知らないことを想定した次のような授業を「県民の日」当日に試みた。同日までに1学期の履修内容も終了しており、1学期の復習及び2学期の予習として位置付ける特設授業とした。



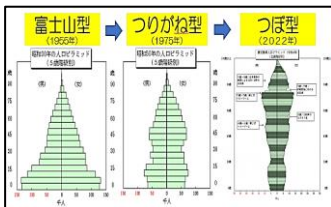
【資料1】県民の日ポスター

1871年(明治4年)の**廃藩置県**(はいはんちけん)により**鹿児島県**が誕生。この**廃藩置県**が実施されたのが、**7月14日**である。県民が、**郷土の歴史や文化を見つめ直し、郷土に対する理解と関心を深め、ふるさとを愛する心をもち、自信と誇りをもつ日**。廃藩置県は歴史教科書p169で習い、2学期に学習する予定。**鹿児島県の誕生日**

【資料2】「県民の日」の目的

- ・ さつまセゴドン空港
- ・ マグマ桜島空港
- ・ みやま霧島空港
- ・ スラムダンク空港
- ・ 黒豚(六白)空港
- ・ ぐりぶー空港 等

【資料3】鹿児島空港の愛称案



【資料4】人口ピラミッドの変遷

- ・ ローカル色を前面に出したPR活動をする。
- ・ 幼稚園の時から鹿児島への勉強をする。
- ・ 鹿児島大フェスティバルなど全県でイベントを行う。
- ・ 三大都市圏の全駅に鹿児島県のポスターを貼る。等

【資料5】鹿児島県を盛り上げる案

主題	「県民の日」を通して、今後の鹿児島県の目指す姿を考えよう！	
目標	1 郷土に関する資料を基に多面的・多角的に考察し、その特色を表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】 2 「県民の日」や郷土を盛り上げる方法について意欲的に考え、提言することができる。【学びに向かう力、人間性等】	
	学習活動	指導上の留意点
	1 「クイズ何の日？」に取り組む。 7/7「七夕」 7/10「納豆の日」 7/14「県民の日」など	1 クイズ形式で出題することで、学習への意欲を高める。
導入 10分	2 学習課題を設定する。 自信と誇りにあふれる、より豊かな鹿児島県の未来について考えよう。	2 生徒玄関にポスターがあることをふれる。「県民の日」の概要を説明して学習課題を設定する。
	3 「県民の日」が制定された理由や取組内容を確認する。 ・ 廃藩置県の実行日 ・ 郷土の文化や歴史を見つめる。	3 廃藩置県については3学期の歴史的分野で学習することを予告する。
	4 全国9位の旅客数の鹿児島空港の愛称を考え、発表する。 《考察する視点例》 ・ 自然 ・ 文化 ・ 歴史 ・ 産業 ・ 県民性 ・ その他	4 全国の空港の愛称名を数か所紹介する。 ・ 高知龍馬空港 ・ 鳥取砂丘コナン空港 ・ 阿蘇くまもと空港 等
展開 35分	5 17年後(2040年)の鹿児島県の人口ピラミッドの形を予想し発表する。 富士山型→つりがね型→つぼ型→？型(2040年)	5 地理的分野の内容を復習する。その形を予想した理由を自分ごとで説明させる。
	6 「県民の日」や鹿児島県を盛り上げる方法を考える。 ・ イベントや祭り ・ 休業日の設定 ・ 子育て/住宅支援 ・ 工場誘致 等	6 鹿児島県や日本を担う一人である意識をもたせ、自由で柔軟な意見を出せる雰囲気をつくる。
終末 5分	7 鹿児島県の現状と課題を整理し、考えた提言を発表する。	7 提言内容を全体で共有する。

導入部分では、「クイズ何の日？」に挑戦し、「アメリカ独立記念日」「七夕」「納豆の日」等の回答が次々に出てきたところで、「今日（7月14日）は何の日だろう。」の質問に対しては、予想どおり全員が行き詰まった。ヒントとして、生徒玄関に掲示してあるポスター写真を提示したところ、数人の生徒から「県民の日」の回答が出てきたが、その理由や内容まで説明することはできなかった【資料1】。そこで、「県民の日」の概要を確認し、学習課題『自信と誇りにあふれる、より豊かな鹿児島県の未来について考えよう。』を設定した。展開部分の冒頭では、廃藩置県が実行されたのが1871年7月14日であり、鹿児島県が誕生した日であることを紹介した【資料2】。その後、地理的分野で学習した内容との関連【資料6】を図った「鹿児島空港の愛称を考えよう。」のテーマで学習に取り組んだ。「高知龍馬空港」「鳥取砂丘コナン空港」など、全国の空港には地域の歴史や自然、文化等と関連する愛称があることを確認し、鹿児島空港の愛称を考える活動を通して、鹿児島県の魅力やPRポイントを出し合い、地域的特色を明らかにする学習を目指した。そして、生徒からは様々な愛称の案が出てきた【資料3】。

主題	「交通・通信から見た日本の特色」 (地理教科書 p174-175)
目標	航空路線等の高速交通網や情報通信網の整備が進み、日本は交通網や通信網が集中する拠点であることを理解する。
主な内容	航空網の整備により、国内及び世界各地が高速交通網で結ばれ、人や物資の移動や情報通信量が増加している。

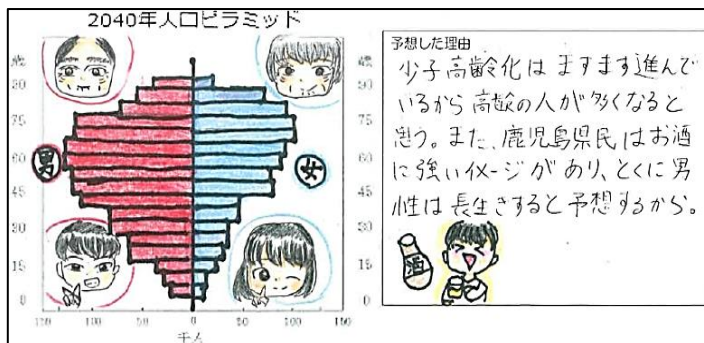
主題	「人口から見た日本の特色」 (地理教科書 p168-169)
目標	人口の移り変わりを示す資料や人口ピラミッドの変化、人口分布に着目して、日本の人口の課題を理解する。
主な内容	過去と現在の人口ピラミッドと比較することで人口の推移や特徴を読み取ることができる。

【資料6】「日本の交通・通信網の発達」の学習内容

【資料7】「日本の人口分布・構成」の学習内容

続いて、同じく地理的分野の内容と関連【資料7】させた「2040年の鹿児島県の人口ピラミッドの形は？」のテーマで、1955年、1975年、2022年の3つの人口ピラミッドの変遷から、17年後（30歳時）の鹿児島県の人口形態を予想させた【資料4】。少子高齢化、過疎化、Uターン現象、県民性など、学習内容を参考に様々な視点から考察している様子が見えかけた。【資料8】

終末では、「県民の日」の周知方法や鹿児島県を盛り上げる方策等を考え、提案・共有する活動を行った【資料5】。



【資料8】2040年の鹿児島県の人口ピラミッド予想と理由（一部）

(2) 薩摩義士山元八兵衛を取り上げた授業

本市は、岐阜県海津市と姉妹都市盟約を締結しており、相互交流が活発である。その理由や、宝暦治水（木曾川治水工事）、薩摩義士等について事前に尋ねたところ、ほとんどの生徒が知らないことが判明した。そこで、郷土から従事した薩摩義士の一人である山元八兵衛を取り上げる授業を通して、先人の偉業や現在とのつながりを考える学習に取り組むことにした。



導入部分では、国道沿い【資料9】山元八兵衛墓所案内板 【資料10】山元八兵衛墓所及び説明

にある山元八兵衛墓所の案内板を提示し、設置場所や墓所の位置を確認することを通して、郷土の先人であることに気付かせた【資料9, 10】。その際、各自のタブレット端

末(Google マップ)を活用して所在地を特定し、本市指定の史跡となっていることにも触れた。

次に、海津市の位置やその周辺を流れる木曾三川、輪中の仕組などを地図帳や教科書を活用して調べた【資料 11】。江戸時代、氾濫による甚大な洪水被害で苦しむ美濃(岐阜県)の治水工事業や、外様大名の島津氏(薩摩藩)に幕府が命じた理由(御手伝い普請)を、歴史的分野の「江戸幕府の大名支配」の学習を振り返りながら考察した。補助資料として、海津市に隣接する輪之内町商工会作成の「治水ものがたり」を活用して、工事内容、薩摩義士の奮闘、岐阜県の人々の思い等を取り扱った。資料を通して、完成までに1年3か月の歳月、40万両(約200億円)の経費、約1,000人の藩士派遣(80人以上の犠牲者)など、薩摩藩に大きな打撃を与えたことを読み取ることができた。



【資料 11】木曾三川と輪中

終末部分では、犠牲者の一人が、勘定方(会計担当)として参加した山元八兵衛であり、理由は不明であるが、工事途中の宝暦4年11月21日に自ら命を絶ったことや、一説では、莫大な費用を要した責任を負ったと考えられていること、命日には、慰霊祭が開催されていることなど、墓所隣

薩摩藩の人たちのおかげで岐阜県の人たちの命が救われたのは、今も生きている私でも誇らしく感じました。幕府のためではなく、そこに住んでいる人を守るためにお互い協力して洗堰などをつくったのはすごいなと思いました。工事が苦しくて自害してしまったり、病気で七くなって家族に会えなかったりなど、鹿児島島に帰ってくるのができなかった人がたくさんいると知って悲しくなるのと同時にそれほどまでにおおがかりな工事だ、たんだなと感じました。山元八兵衛、という人物は今まで知りませんでした。が、「覚えておきたい」と思うほどにすごい人だと感じました。また、「工事をしろ」と幕府から治水工事業の命令がきたときに、薩摩藩は幕府と戦おうとしようとして本当によかったなと思いました。戦わなかったことで当時の岐阜県の人たちの命も守られ、薩摩藩も幕府につぶされずに長続きし、後々協力して幕府をたおすことができるので、この時の判断は間違っていないかたんだと思いました。

【資料 12】薩摩義士(山元八兵衛)の学習の振り返りシート(一部)

にある説明板の内容を活用してまとめた。とても印象に残る学習であったことが、生徒の振り返りシート等からもうかがえた【資料 12】。

(3) 地理的分野「地域調査の手法」及び「地域の在り方」の学習

2年生の地理的分野では、地域に関する学習を2回実施した。1学期(5月)の「地域調査の手法」では、校区内の25,000分の1の地形図を活用して、土地利用やその移り変わり等を読み取る活動を通して、地域の特色や変遷などを明らかにする学習に取り組んだ。また、本市のハザードマップを活用して、校区内で想定される自然災害やその対策、平素から実践できることを班ごとに出し合い、発表・共有する学習を計5時間実施した。2学期(12月)の「地域の在り方」では、「日本の諸地域」(九州地方～北海道地方)のまとめの学習として位置付け、『身近な地域にはどのような課題があるのだろうか～私の提言する霧島市の将来像～』の学習課題を設定した。ガイダンスでは、調査方法の流れを確認したが、テーマ設定に時間を要する生徒がいることが予想されたため、最初に、霧島市の課題を全体で出し合い、その中から各自で関心のある事項を選択して取り組む方式を採用した【資料 13】。その後は、聴き取りやインターネット等で調査した結果を各班で発表し、課題に対する提案内容を共有するとともに、各班から選出された代表者6人は、学級全体に対して発表することにした【資料 14, 15】。一部の学級は、授業参観の中で発表した。自らが考えた霧島市の将来像に対して、保護者から賛同や大きな拍手等を受けて、嬉しそうにする姿も見られた。

調査方法の流れ	
1	テーマを決める →何を調べるか？ただし最初とは限らない！
2	課題は何か？ →霧島市のここが問題だ！
3	要因(原因)は何か？ →〇〇をクリアすれば課題は解決だ！
4	提案(調査)内容はこれだ！ →根拠(データ)or私見に基づく解決策を提案！
5	4による将来像(+効果)は… →こんな未来や効果が期待できる！

【資料13】ガイダンス資料



【資料14】各班での発表



【資料15】全体での発表

地域交通網の整備と過疎化の進行を本市の課題としてとらえた生徒は、次のような提言を行った【資料16】。

1 私の考える個人テーマ

運転できない人も過ごしやすい「霧島市」に！

2 霧島市(鹿児島県)の課題

- ・ 電車・バスの本数が少ない
- ・ 公共交通機関を使う人が少ない

3 要因(原因や理由・歴史的な背景等)

- ・ 主な交通手段が車

※ここでのテーマの「運転できない人」は… 運転できない人への対策は…？ 「バスの本数が少ない地域、中心街から遠い地域」「サポートが必要な人」とします。

4 私の考える解決策や対策(提案内容) ※他の地域の成功例など

- ★バスの本数が少ない地域・中心街まで遠い地域への対策
 - ・ 「きりしまフードキット」(ダンボールに分) 予約をしてくれた方へお届け!! ((1回利用につき 500円)) → 残りは霧島市が負担
 - お試しができる!! ((Free))
 - 霧島市と 保存のきく食品をつくる会社や農家さんと提携
 - ※ 中心街までの距離の条件あり
- ★運転ができない人(体に何かあった人やサポートが必要な人)への対策
 - ・ 代行車「ふれあいCar」(家→施設→家… 500円)
 - 介護施設と霧島市が提携
 - 予約をしたら介護士の方が迎えにきてくれて、いきなりスーパー、ショッピングモールなどの施設へつれていってくれる!
 - ※ サポート有
 - 施設ごとに当番制をすることで、施設の方の負担(少)・お金も入る!

5 将来像・期待されること

① きりしまフードキット

- ・ 霧島市の負担が大きくなってしまうが、キットの売り上げで穴埋めする!
- ・ 会社側も商品を使ってもらい、利用者が「使ってみたらと思ってまた買ってくれる人が増えるので 利益が見こめる!

② ふれあいCar

- ・ ワンコインなので、気軽に利用できる
- ・ 「行きたいところ」はあくまでも霧島市内

【資料16】「運転できない人も過ごしやすい霧島市に！」(生徒提言内容)

(4) 上野原縄文の森(以下、縄文の森)と連携した学習

本校区内には、今から約10,600年前の上野原遺跡から出土した石器・土器等を展示する縄文の森がある。そこで、本施設と連携した学習に取り組むことにした。

ア 出前授業

今年度初めての取組として、縄文の森職員による出前授業「本物に出会い体験しよう」の学習を5月に実施した。講話を通して、上野原遺跡が南九州に先進的で高度な文化が栄えたことを証明する縄文時代最大級の遺跡であること、縄文時代は、本校区のほとんどが海底にあったことなどについて知り、新たな発見があった様子がうかがえた。その後の体験活動では、発掘された石器や土器等を実際に手に取る活動を行った。



【資料17】石器・土器体験



【資料18】火おこし体験

最初のうちは、やや遠慮気味に眺める様子が見られたが、職員から握る場所や持ち方等を教わると、「こんなに小さい矢じりで狩りをしたんだ。」「土器って意外と軽い。」「教科書と似たような文様だ。」など、驚きの声が上がった。また、火おこし体験では、大粒の汗を流しながら、「火おこしは大変だ。」「火がある生活がこんなに楽とは。」などの感想が出てきた【資料17, 18】。

イ ボランティアガイド活動

平成11年から、本校生徒が来園者に対してボランティアガイドを行っている。授

業の中で、オリエンテーションや募集を実施したところ、13人の生徒が応募し、講習や事前研修を経てガイド生としてデビューした。現地研修では、縄文の森の職員に何度も質問をしたり、説明内容をメモに取ったりし、その成果を実際のガイド中に発揮できていた。

また、研修の一環として来園したPTA家庭教育学級のメンバーから、分かりやすさや丁寧さを称賛されたり地元新聞等に取り上げられたりしたことで、自信や誇りを味わう活動となったことが、生徒の感想文等からうかがえた。【資料19】。

縄文の暮らし中学生解説 霧島

- 国分南中学校の生徒13人が、上野原縄文の森のボランティアガイドとして、遺跡の概要や縄文人たちの暮らしぶりについて解説した。
- ある来園者は、「初めて訪れたが説明が分かりやすく、遺跡のことをよく理解できた。」と満足そうな様子であった。
- ガイドを務めた生徒は、「歴史が好き。解説しながら、もっと勉強しなきゃという気持ちになった。」と話した。

※ 南日本新聞（2023年8月17日付）掲載記事を基に筆者が作成

【資料19】南日本新聞（2023年8月17日付）掲載記事の概要

仮説Ⅱの検証【「総合的な学習の時間」・道徳科における実践】

(1) 修学旅行先の地域的特色を明らかにする探究活動（「総合的な学習の時間」実践①）

2年生は、5月に、長崎・福岡県方面への2泊3日の修学旅行を実施している。「総合的な学習の時間」では、事前学習の一環として、訪問先の自然や文化、歴史等を探究する活動を通し、地域的特色を明らかにする活動に取り組むことにした。漠然とした探究テーマでは深まりがなかったり途中で行き詰まったりすることが予想されたため、修学旅行係や「総合的な学習の時間」担当者と協議し、社会科の学習内容と関連付けてガイダンスを実施した。その際、地図帳を活用してコースを確認したり、教科書に掲載されている文や資料等を基に訪問先の特色を確認したりするなど、修学旅行での学びが充実するよう工夫を図った。その後、修学旅行に関連する8つのテーマを例示して、その中から関心のあるものを選択し、探究に取り組むことにした【資料20】。

<p>福岡市(福岡県)【2日目】</p> <p>元の襲来があった博多湾(元寇) 襲来に備えた石の防塁</p> <p>室町時代に塙とともに築いた博多 (日明貿易の中心地)</p> <p>「博多」と「福岡」の違いは?</p>	<p>教科書</p> <p>歴史 p76</p> <p>歴史 p83</p> <p>歴史 p115</p>	<p>ブルブルお土産(長崎編) 【カステラ】</p>  <p>カステラの由来は?</p>	<p>ア 長崎市の自然・文化</p> <p>イ 原爆資料館の内容</p> <p>ウ 原爆の被害と復興</p> <p>エ 核兵器と世界平和</p> <p>オ 折鶴の願いと献花体験</p> <p>カ 長崎市内自主研修</p> <p>キ 水俣病の歴史と現在</p> <p>ク 公害対策と環境保護</p>
--	---	---	--

【資料20】ガイダンス資料及び探究テーマ（一部）

「核兵器と世界平和」をテーマとした生徒は、「世界の国々が核兵器を保有するのはなぜだろうか。」という探究課題を設定し、原爆資料館で見聞したことや講話内容、調査結果などを基に、レポートを作成することができた【資料21】。

〜長崎原爆資料館〜

◦空襲の被害をあまり受けていなかったなどの理由から、長崎に原爆が落とされ、1945年12月までに死者73,884人、負傷者74,909人と推定された。

◦原爆による熱線のすさまじさは、普通のやけどでは考えられない被害を与えた。爆心地付近では一瞬のうちに炭ようになった。

世界には、核兵器がどのくらいあるのか？
世界の核保有数

1	ロシア	6,500	核兵器は大きく分けると2種類 原爆と水爆
2	アメリカ	6,185	
3	フランス	300	

合計約 13,880発 (2019年)

【資料21】「核兵器と世界平和」（生徒作成レポート一部）

事後学習では、全員が学級で探究内容を発表するとともに、各学級から選出された2人は、11月2日に開催した「学習文化発表会」において、その一部を発表する機会を得た。全校生徒や保護者・地域住民に、修学旅行における学びや体験等を発信する絶好の機会となった【資料22】。



【資料22】学習文化発表会

(2) 地域内の上級学校と連携した探究活動（「総合的な学習の時間」実践②）

本市内にある上級学校の一つで、本校からも多くの生徒が進学する県立国分高校と連携した学習にも取り組んだ。当校は、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）として、数多くの課題研究に取り組み、その成果は国内外で高い評価を得ている。その一端と探究方法等を習得することを目的に、次の内容で発表会を実施した【資料23】。

ア 実施日	令和5年5月17日 6校時	
イ 対象	全校生徒及び全職員	
ウ ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 課題探究活動の発表を聴くことを通して、「総合的な学習の時間」やSDGsの取組及び活動への興味・関心を高める。 SSHの取組や活動にふれることにより、課題解決学習に必要な知識や技能の習得を図る。 	
エ 方法等	4班の探究活動の発表及び質疑応答（各10分）	

【資料23】課題探究活動発表会の実施要項（抜粋）と発表会

「身近にあるイシクラゲの活用とその可能性」「エストニアと対比した日本の高校生の学びの現状」「ボルタ電池の特性と応用技術」「天降川や錦江湾のエビ類の分布と生態」など、中学生にはやや高度な内容もあったが、高校生は、平易な言葉で解説を加えながら発表を行ってくれた。また、探究活動に必要な視点や方法、中学校の時から身に付けておくべき姿勢など、中学生からの質問に対して丁寧に回答をしてくれた。国内大会で最高賞の「文部科学大臣賞」を受賞し、7月にシンガポールで開催される世界大会に出場する発表に対しては、大きな尊敬や憧れの想いを抱いた様子が感想文からうかがえた。

(3) 郷土に関係する人物を取り扱う道徳の授業（道徳科実践①）

本校では、副担任も毎月2回程度、所属学年の学級で道徳の授業を行う体制で道徳教育を推進している。その際、取り扱う内容は、可能な限り授業者の教科（専門）性を生かせる教科等横断的な内容になるよう、学年の道徳係が主題や題材の配置を再構成し、深まりのある道徳の授業が展開できるよう工夫を図っている。

社会科担当である私は、第二次世界大戦下のリトアニアでナチスの迫害から逃れてきたユダヤ人を救うため、本国外務省の方針に背きビザ発給を行った外交官の杉原千畝の葛藤や勇気ある行動を通して、世界平和や国際貢献の在り方を考える題材を担当することになった【資料24】。

主題	垣根をこえて
項目	C-18〔国際理解・国際貢献〕
題材	六千人の命のビザ
目標	杉原千畝の行動を通して、世界の中の日本人として、人間愛の精神に基づき、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与しようとする態度を育てる。
主な内容	<ol style="list-style-type: none"> ビザ発行禁止を命令された杉原が幾日も悩んだのはどうしてだろうか。 杉原の苦悩の末の行動には人間に対するどのような思いがあったのだろうか。 世界の平和に貢献するために、私たちができることは何だろうか。 <u>杉原千畝以外に、人道的な立場から行動した日本人はいなかったのだろうか。（追加の課題）</u>

【資料24】「六千人の命のビザ」の道徳授業（概要）

前半は、教科書に則した内容で展開するとともに、後半は、杉原千畝と同じくユダヤ人救済活動を行った樋口季一郎の新聞記事を活用した学習ができるように工夫を図った【資料 25】。ソ連(当時)から満州国(同)経由でアメリカに避難しようとするユダヤ人の移動手段や必要物資を確保(「ヒグチルート」)し、2万人以上を救ったとも伝わる旧日本陸軍の軍人であり、人間愛に基づく命懸けの行動であったことに気付かせることができた。また、樋口は、杉原とともにユダヤ人社会で命の恩人として顕彰されていること、戦後、宮崎県小林市や都城市に移住し、親族は鹿児島県内に現在も在住していることなどについて新聞記事から読み取った。「一人でも多くのユダヤ人を助けることを使命だと感じた。」「見て見ぬふりをせずに尊い命を救った日本人」などの意見が多く出され、国際的視野に立ち、人類愛の精神に基づいた杉原や樋口の心情に迫る学習を展開することができた。

ユダヤ難民にビザ 武器捨て無血撤退 異色の陸軍軍人しのぶ 戦後 10 年生活 小林で集会

- 第二次世界大戦前の 1938 年、ナチス・ドイツの迫害から逃れ満州国(当時)国境にたどり着いたユダヤ人難民を救うため、満州国に働きかけてビザを受給させた旧陸軍軍人、樋口季一郎(1888~1970)の軌跡を学ぶ集会在、小林市であった。
- 樋口は、リトアニアで同様にビザを発給した外交官・杉原千畝らとともにユダヤ社会では恩人とされている。
- 当時の日本軍ではタブーとされた武器投棄を命じて無血撤退につなげるなど、異色の軍人だった。

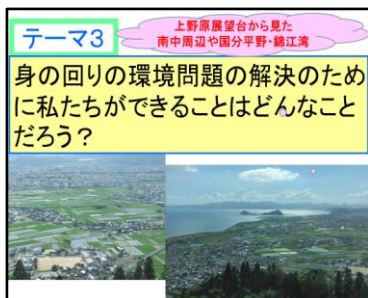
※ 南日本新聞(2023年7月21日付)掲載記事を基に筆者が作成

【資料 25】南日本新聞(2023年7月21日付)掲載記事の概要

(4) 足尾銅山鉍毒事件から地域環境について考える道徳の授業(道徳科実践②)

2 学期には、足尾銅山鉍毒反対運動に一生をささげた田中正造の生き方を通して、公平で公正な社会の実現に努めようとする心情を育てる「渡良瀬川の鉍毒」[内容項目 C-11 公正・公平・社会正義] の道徳の授業を担当した。導入部分では、歴史的分野の教科書を活用しながら、当時の時代的背景をつかむとともに、修学旅行の 3 日目に訪問した水俣病資料館の見学内容等を振り返る場面を設定した。社会科の内容や実体験などに関連付けて学習を進めることで、社会正義を訴え続ける田中正造の心情に迫り、自分の考えや行動を見つめ、公正や公平な態度について考えを深めようとする姿勢につながることを目指した。

終末部分では、自然愛護[内容項目 D-20] との関連も図り、「身の回りの環境問題解決のために私たちができることはどのようなことだろうか。」というテーマで、考え、議論する場面を設けた。その際、校区内の上野原展望台から撮影した学校周辺や錦江湾・桜島等の写真を数枚提示し、具体的に想起できるように工夫した【資料 26】。また、私自身が中学生の頃、校区内の一部では環境問題(悪臭や不法投棄)が実際に起きていたこと、その後、地域住民や関係機関の協力によって解決した経緯があったことも紹介した。自分たちの住む地域ということもあり、生徒からはたくさんの意見が出された【資料 27】。



【資料 26】追加の課題と校区風景

- ・ 次の世代や地域の将来を考えた生活をする。
- ・ 自分たちの住む地域や郷土である自覚をもち続ける。
- ・ 過去の環境汚染や現状から目をそらさない。
- ・ 天降川と錦江湾がつながっていることを意識する。
- ・ 身近にできる行動(エコバック・ゴミ分別)を心がける。
- ・ ポスターや広報誌等で環境保全を大きくPRする。
- ・ ゴミ拾い大会、ゴミ箱コンテスト等のイベントを行う。

【資料 27】環境問題解決のための方策案

また、地理的分野で学習した霧島ジオパークや桜島・錦江湾ジオパークなどの活用などを提言する意見もあった。

6 研究の成果と課題

(1) 成果

ア 「郷土に魅力を感じる」「郷土の発展に役立つことをしたい」と回答した生徒が8割以上おり、地域に対する高い関心があることがうかがえる【資料28】。

イ フィールドワークにより収集した資料やタブレットを授業で活用することを通して、より現地感や現実感をもった学習につながってきている。

ウ 7月に開催された本市夏祭りの御神輿担ぎ手に、ほとんどの生徒が自主的に参加するなど、自分たちの地域を盛り上げようとする態度が育ってきている【資料29】。

エ 実在する人物の感動的な教材等を通して、世界平和や国際貢献について自分なりに考え、行動に移そうとする姿勢が生まれている。

オ 教育課程編成委員会及び「総合的な学習の時間」係会で、これまでは1年生のみであった郷土教育を、来年度は、全学年のカリキュラム（時数）の中で取り入れていくことが決定し、現在作成中である。

(2) 課題

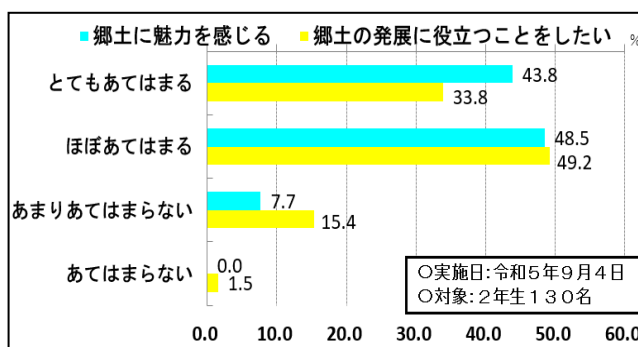
ア 郷土教育に関する教科等横断的なカリキュラム編成を、総合的な学習の時間や道徳科以外でもどのように広げていくか。

イ 郷土に対する魅力や関心をあまりもてない生徒に対して、どのような支援や教材開発を進めていくか。

ウ 地元商工会や文化施設と連携した郷土教育の機会や場をどのように設定して、体験的な学習を充実していくか。

7 おわりに

本研究を通して、私自身も、郷土の素晴らしさや将来性を再認識する場面がたくさんあった。郷土での学びや生活、想い等を根底にもちながら、未来を切り拓き、国内外で活躍する生徒（後輩）が一人でも多く出るような教育を、今後も、社会科教員として力強く進めていきたいと考えている。



【資料28】生徒アンケート



【資料29】第59回霧島国分夏祭り